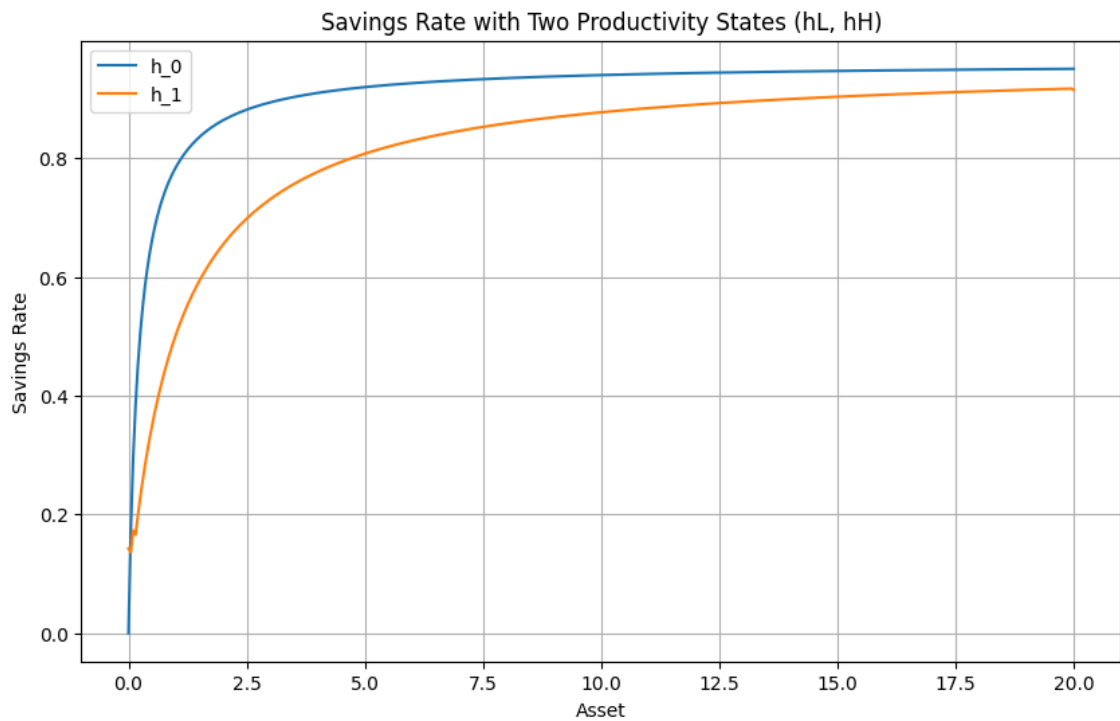
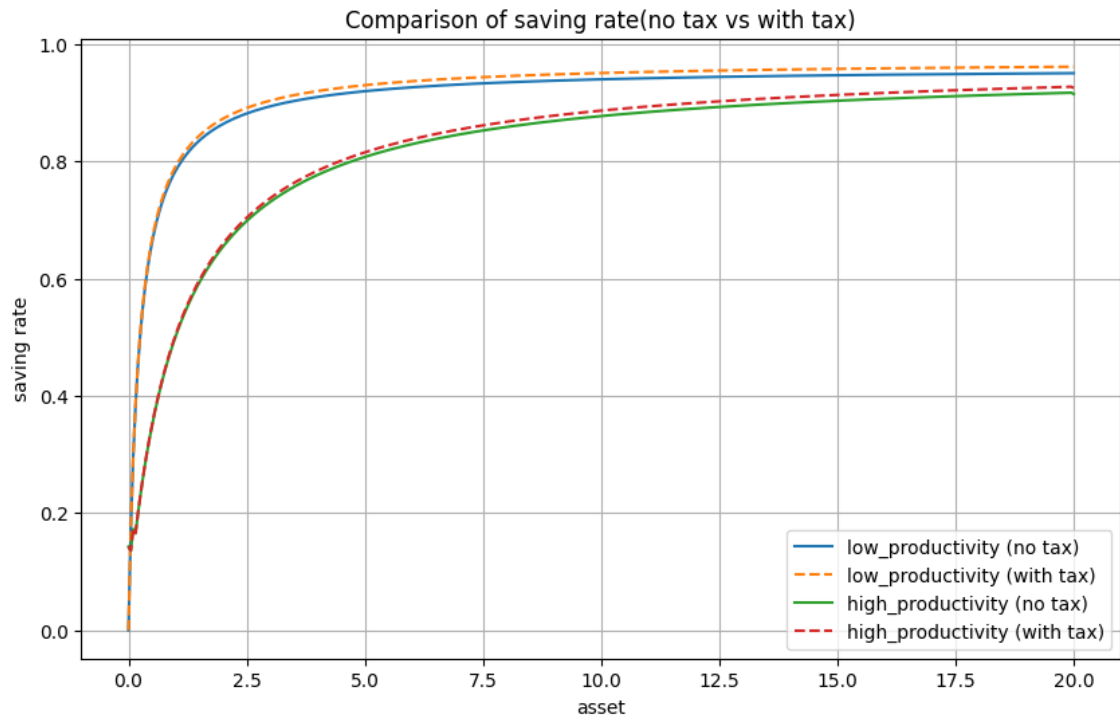


1,



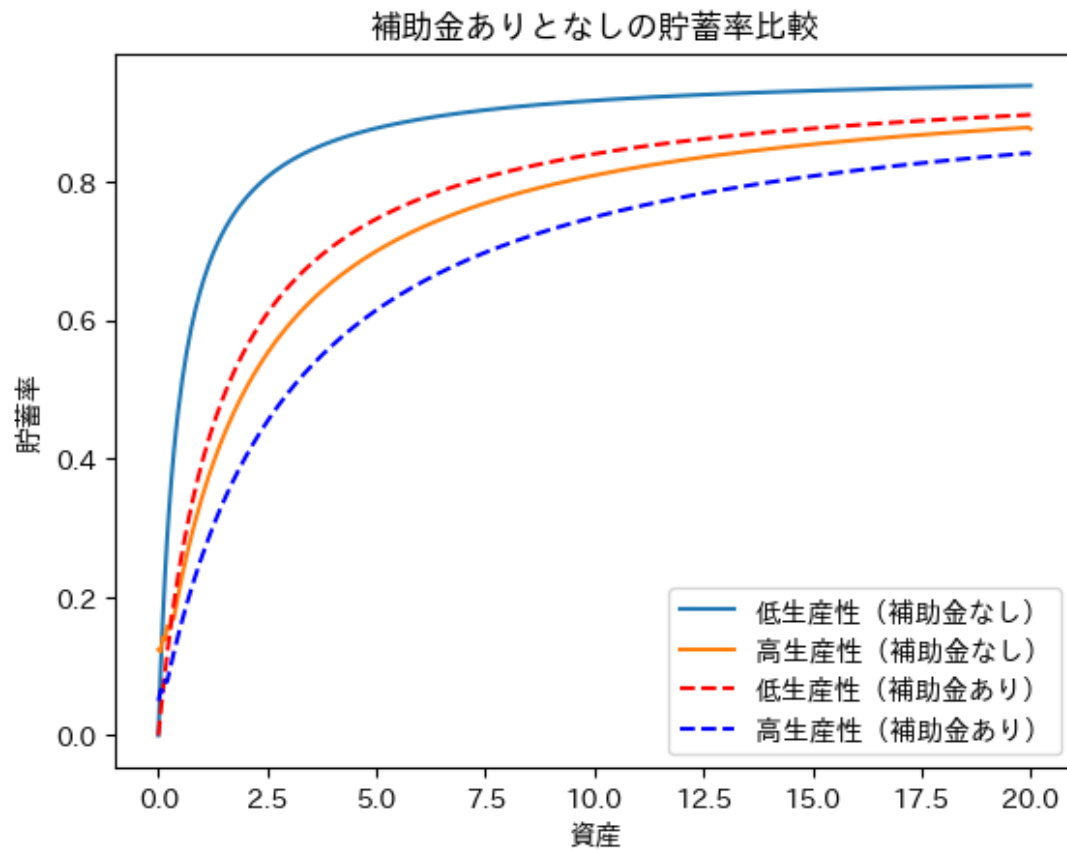
→貯蓄率は現在の資産の増加関数であると思う。直感的な理由としては、資産が増えたと、将来の不確実性に備えて現在の貯蓄を増やし、将来の消費をより多く確保する傾向があるためである。資産が少ない場合は、基本的な消費を賄うために貯蓄を減らす傾向があると思う。

2,



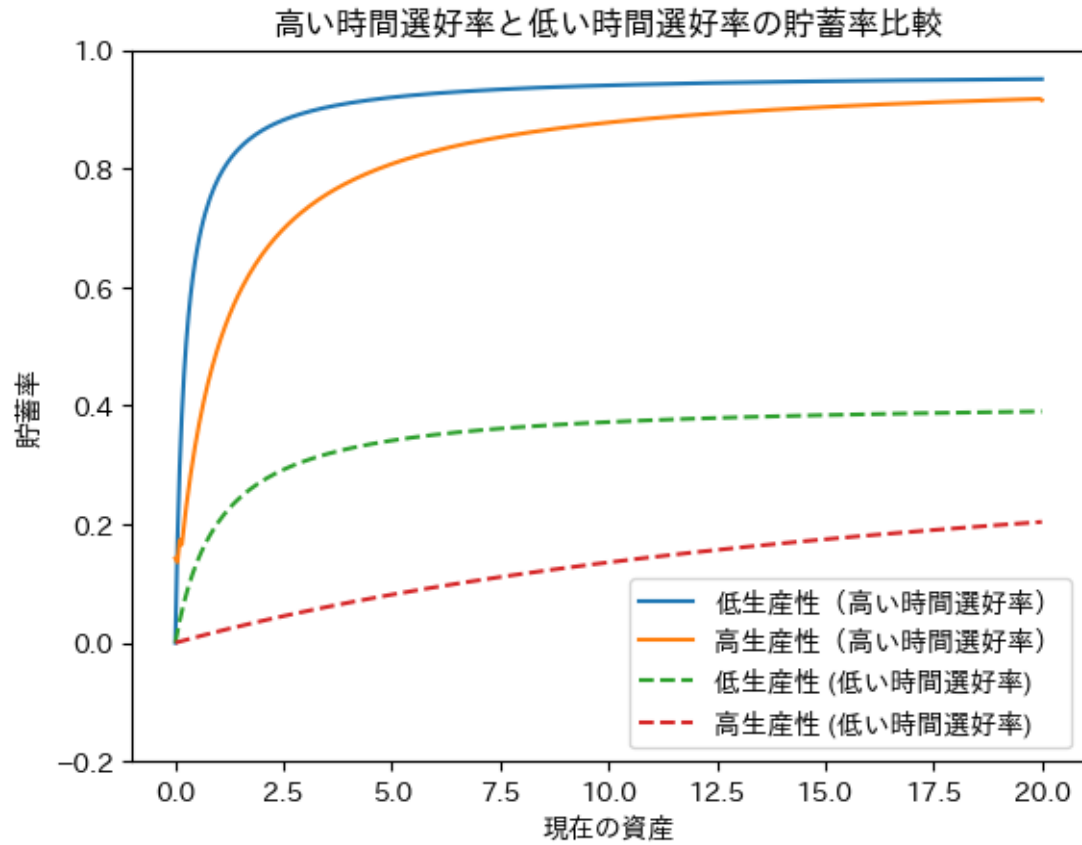
→資本所得税を導入すると、貯蓄率は増加している。この直感的な理由は、資本所得税によって家計の消費可能な資産が減少するため、将来の不確実性に備え貯蓄する割合が増加するからであると考えられる。

3,



→政府からの一括補助金を導入すると、貯蓄率は低下している。この直感的な理由は、一括補助金が直接的に消費可能な所得を増やすため、家計の経済的余裕が増え、現在の消費に対するインセンティブが高まるからであると考えられる。

4,



→1 のグラフと比較した場合、時間選好率を低くすると ($\beta = 0.1$)、貯蓄率は減少している。理由は、時間選好率が低いほど、資産の将来における価値が目減りしていき、家計は現在の消費を将来の消費よりも重視する傾向が強くなるからである。つまり、現在の消費を増やし、将来のための貯蓄を減らす行動が効用を最大化させると考えられる。